

私にも  
言わせて!  
第24回

アジアの交流拠点都市・  
福岡でのわくわく保健所業務



福岡市博多区  
保健福祉センター  
健康課長

山本 信太郎

平成6年佐賀医科大学卒業。臨床研修を経て、佐賀医科大学医学部、米国ネバダ州立大学医学部、佐賀大学医学部、福岡大学医学部にて勤務。23年10月福岡市職員採用。平成26年4月から現職。

ある懇親会で、知り合いの先生から「月刊公衆衛生情報」期待の若手シリーズに書いてもらえませんか？」との一言。私が今さら若手というも変だし、期待といわれても何かしてきただけでもないの、一瞬は躊躇したものの、頼まれたら断れない性格上、「いいですよ」と答えてしまいました。書き終えてみますと、いまの気持ちを書き出したものみだいに書いてしまいましたが、しばしおつきあいください。

エンターテインメントの  
つぼ・福岡市

現在勤務する福岡市博多区保健福祉センターは、JR博多駅から徒歩5分、駅から歩いていく地下通路「P4出口」からすぐ近くの場所にあります。そこには保健所としての役割、市町村保健センターとしての役割、福祉事務所としての役割が集積しています。そのため何かあっても即座に関係課のメンバーが集合できるなど、スピード感と活気に満ちた職場です。

福岡市では、学術学会が頻繁に開催されていますので、皆さまの

多くは福岡市に來られたことがあ  
るのではないのでしょうか。福岡市  
は多様な魅力にあふれた都市です。  
大陸との交流の歴史や、山笠、ど  
んたけなどの祭り、「アジア太平洋  
フェスティバル」、「アジアフォー  
カス・福岡国際映画祭」や、有名  
な歓楽街である中洲がジャズ一色  
に染まる「中洲ジャズフェステイ  
バル」など、さまざまなイベント  
がどこかで毎月のように開催され  
ています。玄界灘の新鮮な魚介類  
はもちろんのこと、とんこつラー  
メン、もつ鍋、水炊き、がめ煮と  
いった食文化も豊富です。商業施  
設が密集する天神地区や、キャナ

ルシティ博多やホークスタウンな  
どの複合施設はいつもにぎわって  
いますし、スポーツ、コンサート、  
演劇等のさまざまな公演などのエ  
ンターテインメントにも事欠きま  
せん。ぜひプライベートでも福岡  
市に來ていただき、数日間かけて  
じっくりと過ごしていただきたい  
と思います。

福岡市は昨年5月1日に推定人  
口が150万人を突破し、しばら  
かは増加すると予想されています。  
確かに若者率(15・29歳)が政令市  
中第1位(平成22年国勢調査)と若  
いまちではあるのですが、確実に  
少子高齢化も進んでいます。そん  
な福岡市の玄関口である博多区は、  
福岡空港やJR博多駅・博多港を  
抱え、国道3号が区内を縦断して  
います。特徴として挙げられるの  
は、高齢化率は福岡市平均よりも  
低いものの高齢単身世帯は平均よ  
りも高いこと、アジアからの留学

基礎医学から  
公衆衛生医師へ

多くの公衆衛生医師は臨床医と  
して勤務したあとに公衆衛生医師

に転身されるケースが多いかと思  
います。しかし、私は基礎医学か  
らの転身です。もともと小児科  
医としてスタートしたのですが、  
大学院に入ってから基礎医学に  
没頭し、卒業後2年間海外留学を  
経験したあと、そのまま基礎医  
学の研究室に戻っていました。小  
児科救急病院や健診機関のアルバ  
イトをしつつ、大学での研究や講  
義、実習の毎日でした。

キャリアが進むにつれて、しだ  
いに雑務も増えていくのですが、  
あるときに、もっと医者ならではの  
の仕事をしたいなあ、と思い始め  
ました。

当時から実験も好きだけれども  
論文を書いたり、講義資料を作成  
したりするのが好きで、しだいに  
関連する法令を知っておかねばな  
らなくなり、やむなく法律を読ん  
でみると結構面白い。もともと大  
学院を公衆衛生に行くか基礎医学  
に行くかを悩み、諸般の事情で基  
礎医学に進んだ経緯もあり、自然  
と公衆衛生医師の募集をインター  
ネットで検索し始めました。そし  
て福岡市の公衆衛生医師募集が  
ヒット。翌日には電話をしていま

した。その後書類を郵送し、面接  
等を経て、平成23年10月に福岡市  
職員として採用されました。

業務を始め

福岡市の公衆衛生医師は、もち  
ろん医師になってからの年数にも  
よりますが、各区の保健福祉セン  
ター健康課の健康づくり係長から  
スタートすることが多いようです。  
健康づくり係は、感染症や健康  
増進、母子保健等を担当します。  
そのため当初、医師業務として  
は、所内の乳幼児健診や感染症緊  
急対応、HIV等の感染症抗体検  
査と結果説明、結核に関する対応、  
特定健診・特定保健指導の集団指  
導と紹介状の作成・発行等を行い、  
係長業務としては、各種事務資料  
や会議における想定問答集の作成、  
食育や健康づくり関連会議の開催、  
地域に向かい保健福祉事業懇談  
会での説明等を行いました。

まったく経験したことのない業  
務も多かったですが、たいへん有  
意義な時間を過ごすことができました。  
特に思い出深いのが、昨年  
度の「博多区健康フェスティバル」

です。それまでの展示型から体験  
型に大きく方向転換し、企業や健  
康づくりに関連する団体、専門学  
校や高校等とともに開催しました。  
子ども向けの医師体験、看護師体  
験、薬剤師体験、パティシエ体験  
を企画したところ、多くの家族連  
れの来場を得ることができ、最後  
に実施した健康日本21〇×クイズ  
では、協賛企業からの豪華景品が  
集まったこともありたいへんな盛  
り上がりを見せ、結果的に大人か  
ら子どもまで健康について楽し  
く学べるフェスティバルとなりまし  
た。

この開催に向けて区役所の関連  
課の協力も得られたことにより、  
保健福祉センター以外の市職員と  
の交流が広がったことは、個人的  
には幸運でした。福岡市では小学  
校校区を単位とする自治組織があ  
り、市と共働して「健康日本21」の  
推進活動を行っています。そのた  
め、このフェスティバルを通して  
得られた企業や各種団体等との  
連携を、次は地域の健康づくり活  
動にもつなげていければと思っ  
ています。そのほかにも、ホームレ  
ス結核検診を実施する前には、支

援団体の皆さんと親交を深めるた  
めに炊き出しのお手伝いをしたり、  
会社等に結核接触者健診のお願い  
に行ったり、感染症の調査のため  
に現場に行ったりするなど、さ  
まざまな経験から得た現場感覚を、  
次は市の施策に反映できればと  
思ったりもしています。

これからどうしていきたい

改めて振り返りますと、「行政と  
してはなくてはならないこと」と  
「人として医師としていたいこと」  
と市民にとって有益であること」  
を常に考えさせられ、その狭間で  
仲間と一緒に悩みながら過ごして  
きた毎日でもあったように思いま  
す。まだまだいろいろなることを学ん  
でいる最中ですが、ベテランの公  
衆衛生医師には、熱い心と冷静か  
つ素早い判断力、そして絶妙なパ  
ランス感覚をおもちと感じていま  
す。微力ですが、福岡市がめざす  
姿を思い描き、市民が住み慣れた  
家庭や地域で安心して暮らしてい  
けるまちの実現に向けて、目の前  
の仕事を一つひとつ確実に取り組  
んでいきたいと考えています。